



渡田智氏講演「命を守る教師の仕事ー東日本大震災のなかで教師たちは」(11/5 学部完成記念行事)

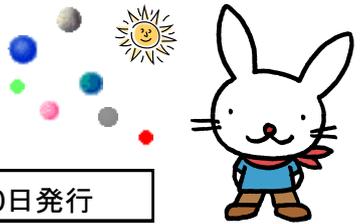
### この号の主な内容

渡辺頭一郎ゼミ(子ども発達学専門演習 I)の活動報告	1
就職戦線突破! 学部1期生喜びの声 続々①	2
就職戦線突破! 学部1期生喜びの声 続々②	3
ゼミナール活動を紹介します	
保育園実習・教育実習を終えて 一緒に学び成長しましょう(教員紹介)	4

# We Love わたつ

ー 日本福祉大学 子ども発達学部ニュースレター ー

第8号 2012年1月20日発行



## 学生と一緒に宮城県へ

渡辺頭一郎ゼミ(子ども発達学専門演習 I)の活動報告

学生と一緒に宮城県へ 2011年3月11日の東北地方大震災は、未曾有の被害をもたらしました。学生の皆さんの中にも、自分に何が出来るのかを考え、実践した人たちがいると思います。私のゼミでは、8月16日～18日まで、宮城県を訪問しました。被災した子どもたちにかかわりを持つだけでなく、自分たちも学びを得るためです。東北地方を襲った災害は、地震国「日本」に住むかぎりには、決して対岸の火事ではありません。初日はレンタカーを借りて、津波被害に遭った七ヶ浜町へ行ききました。浜に降りた途端、学生たちが息をのむのがわかりました。津波に飲み込まれ、さら地に変わった浜の町を目の当たりにしたからです。そして、除去された瓦礫の山が、丘の上に積まれていました。ビルの3階分にも相当する、莫大な量でした。これを片付けられない限り、復興の兆しは見えません。しかし、放置された瓦礫からは腐敗臭すらただよい、そばに車を5分停めている間に、何匹ものハエが入ってきました。浜から2キロほど離れたコンビニでも、ハエが発生していました。



その後、石巻市立門脇小学校へも行ききました。ここは、津波に押し流された自家用車のガソリンが引火、火災によって3日間燃え続けた学校です。瓦礫は片づきましたが、焦げた校舎はそのまま残っています。普段は穏やかな学生たちが、政治への不満を口にしました。この光景を見れば、ごく当たり前の、自然な反応だと思います。自然災害の猛威を、そして政治的な失策を、忘れることなく胸に刻みつけてほしいと思いました。翌日は、学生のボランティア活動でした。仙台市内の子育て支援センター3か所、周辺市町の児童デイサービス(障害児通園事業)に分かれての活動です。震災の

ショックから健気に立ち直ろうとする子どもたちの、遊び相手になればと企画したものです。ほぼ毎日のように続く余震があり、訪問時にも震度4の余震がありました。学生も驚いていましたが、児童デイサービスでは、パニックになる障害児もいたそう



です。子育て支援の場で気づかされたのは、親支援の必要性でした。「今でも幼い子どもと二人で家にいるのが不安」「みんなが復興を目指すときに、弱音を吐けないという遠慮…」、スタッフの方々に教えてもらった、母親の悩みです。学生が、福島県から避難してきた親子に出会いました。「今なお親族を頼って転々とし、家に帰れない…先の見通しもなく、いつまでこんな生活が続くのか…」。学生がお母さんから教えてもらったそうです。泣きそうな顔で私にも教えてくれました。子どもの心のケアはもちろん大切ですが、大人のケアも必要です。メンタルな支援だけでなく、具体的な生活支援が求められています。「震災は終わっていない」というのが、私と学生たちの率直な感想です。被災地以外では、危機意識が薄れてはいないか…それが私の自戒を込めた心配です。

門脇小学校の前のさら地に、スイカが実っていました。今は跡形もないですが、元は畑だったのかもしれない。「東北の人の生活に、再び実りが訪れますように」とみんなで祈りました。あれから4か月、私は放射能被害から避難している親子の支援にかかわりを持っています。山形県内だけでも1万2千人の自主避難者がいます。今でも震災は継続中です。自分にできることを、皆さんも今一度考えてほしいと願っています。



渡辺頭一郎(わたなべ けんいちろう) 子ども発達学科 教授

## 就職戦線突破！学部1期生 喜びの声 続々

### 愛知県職員(福祉職)採用試験合格



白井 貴哉(うすい たかや)心理臨床学科4年  
岐阜県/美濃加茂高等学校出身

私が公務員試験の勉強を始めたのは3年生の10月からです。それから7か月以上の勉強期間を経て、幸運にも国家公務員である法務教官と愛知県職員(福祉職)採用試験の最終合格を頂きました。公務員試験を突破するには、受験先に見合った勉強法と情報収集、そして公務員になってこんな仕事がしたいんだ、と言う明確な強い意志が必要だと思います。そのために、現役職員であるゼミのOB・OGに試験対策や業務内容の説明をしてもらったり、共に合格を目指す友人と情報交換や励ましあったりして長丁場の受験生活を乗り切りました。気づけば勉強時間は1000時間を超え、公務員となっていた仕事も明確となったことが、本番の採用試験でも自信となり、最終合格につながったのではないかと思います。近年、児童虐待が大きな関心を寄せていますが、一人でも多くの子どもを救い、困難な状況にいる人々に希望の光となる職員になれるように頑張っていきたいです。

### まわりに支えられて 名古屋市保育所保育士職採用試験合格

長谷川 未来(はせがわ みく) 保育専修4年  
愛知県/春日井南高等学校出身

私は幼いころから出身でもある名古屋市立の保育士になりたいと思っていました。就職を意識始めた2年生の冬に、ゼミの先生を介して公務員保育職に合格した先輩の話をきくことができました。先輩はどのような問題がでるのか、どのような対策が必要かを丁寧に教えて下さいました。それを期に私は保育職を受験した多くの先輩方から傾向やアドバイスを頂き、自分にはどのような対策がいいのか模索しました。勉強は実習など忙しい時期にはいる前の4年生4月から少しずつ続けていきました。そして面接対策としては先生やキャリア開発課、友人、両親に模擬面接をしていただき本番に臨みました。私が採用試験を通して感じたことは先輩方からの情報とまわりの方々の協力の大切さです。今はみなさんのおかげで夢だった名古屋市の保育士になれて感謝でいっぱいです。

### 和歌山県特別支援学校教諭採用試験合格

長岡 優(ながおか ゆう)心理臨床学科4年  
和歌山県/日高高等学校出身



教員採用試験が合格だと分かった時、本当に嬉しく、夢に大きく近づいた！と感じました。家族もとても喜んでくれ、その姿を見てさらに嬉しくなりました。私は、教師になるために日本福祉大学に入学したので、その目的を達成することができ本当によかったです。私が試験に向け特に力を入れたことは、論文と専門(特別支援教育)の対策です。論文は、何本も書き、書いた論文は先生に見てもらうことで、書く力がついたと思います。先生方は、採用試験に向け様々なアドバイスをしてくれました。教職課程の学生の中から希望者を集めての勉強会もしてくれ、教職に熱い思いを持った学生が集まりモチベーションもあがりました。私は小さいころからずっと教師になりたいと思っていましたし、教育について学ぶのは、楽しいし、知ることが嬉しかったのです。教育実習では、先生方、生徒からたくさんのことを教えてもらい、そして、教師になるという思いもさらに強くなりました。教師は、本当に忙しいと思うし、私が想像する以上に大変なことがたくさんあると思うので、しっかり働けるのか不安です。しかし、毎日子どもたちと学校で過ごす生活にワクワクしています。子どもからたくさんのことを学び、子どもたちと共に成長しあえる教師になりたいと思います。そのためにしっかり学び、いろいろな経験をしたと思います。学生だから、日本福祉大学だから、学べること、経験できることがあると思います。大学生活も残り少なくなりましたが、たくさんの人に出会い、いろいろなことに挑戦し、有意義に過ごしたいと思っています。

### 自分に合った勉強方法を

### 名古屋市保育所保育士職採用試験合格



藤井 岳(ふじい がく) 保育専修4年  
岡山県/岡山一宮高等学校出身

私が本格的に勉強を始めたのは4月からです。勉強方法は自分に合ったものを取るのが一番だと思います。私は一通り簡単にその分野を勉強してから模試や過去問を解き、どんな問題がよく出題されているかを把握していききました。一般教養は数的処理や政治経済を中心に勉強しました。これらの科目は出題数が多いのでしっかり勉強するのがよいと思います。専門科目はとにかく範囲が広く、覚えるのが大変でした。量をこなしつつ過去問などで見た問題を確実に覚えるようにしたらよいと思います。最近の自治体の傾向として面接試験を重視するというものがあります。名古屋市でも今年是一次の筆記試験に合格する人が多かったようです。名古屋市の面接試験は面接官がとても優しく、私が受けた自治体の中で最もやりやすいものでした。しかし面接の空気は独特なので友人やキャリア、ゼミの先生などに練習を頼むとよいでしょう。面接の雰囲気慣れることが大事です。私は就職した後、子どもたちが協調性を身につけられる保育をしたいと考えています。そのために今まで学んだことを保育の中で活かし、就職した後も成長を続けたいです。

### 岐阜県特別支援学校教諭採用試験合格

小松 佑平(こまつ ゆうへい) 初等教育専修 4年  
静岡県/小山高等学校出身

大学に入学した時は、「4年間は長いなあ」と感じていましたが、いざ4年生になってみると「あつという間だったな」という思いになっていました。これから入学される皆さんには、この4年間を充実した大学生活として過ごしてもらいたいと思います。そのうえで、僕のアドバイスが少しでも役に立つとうれしいです。まず、勉強についてですが、大学は様々な知識を得ることのできる場なので、時間に余裕があれば、自分の学部・学科でなくても受講できる講義もあるので、興味のある講義を色々受講してみるといいと思います。講義と聞くと堅苦しくて、90分間も聞いていられないかもしれませんが、教員採用試験やその他と資格試験、実習などにおいて必ず役に立つことなので、眠い目を擦ってでも聞く価値は大いにあります(僕は時々寝てましたが…笑)。

次は勉強以外のことについてですが、大学の場合は空き時間も結構あるので、趣味やサークル、バイトなどいろいろなことができると思います。遊びに行くにしても、下宿生ともなれば夜中まで遊ぶのは当たり前になってきます。こういったことが大学生生活の醍醐味だと思います。この勉強と勉強以外の部分をうまく両立させることで、充実した大学生活が送れると思います。そんな中で、いろいろな人と出会い、関わっていくことで、生涯にわたって遊んだり、相談に乗ってくれたりするような親友などにも出会えると思います。もちろん、運命の人に出会うことがあるかもしれませんが、なんだかアドバイスになっているかは分かりませんが、大学というのは、皆さんの人生を決める重要な場所であることは間違いないと思います。入学して4年間を過ごす間に、考え方や価値観などが変化していく中で、目指すものも変わってくるかもしれません。でも、卒業する最後には「4年間楽しかった！」と思えるように、自分だけの大学生活を送ってほしいと思います。受験勉強はとても大変ですが、ここでの頑張りや自分の将来への布石になるとあって頑張っていたいだきたいです。最後に受験生の皆さんにより結果が出ることを祈っています。頑張れ、受験生！

## 就職戦線突破！学部1期生 喜びの声 続々

### 意志あるところに道は開ける 神奈川県小学校教諭採用試験合格

安藤 ゆう子(あんど うゆうこ) 初等教育専修 4年 愛知県/名古屋商業高等学校出身

これは、私の好きな言葉です。私はこの言葉を信じてこの4年間、日本福祉大学で小学校教員になる夢のために学んできました。大学1年は、机上での学びで教育や保育について多くのことを知ることができました。大学に入り、はじめて学校現場に足を運んだのは大学2年でのインターンシップでした。そこでは、月に1回、中学生に触れ、学校現場の様子を見させてもらう貴重な機会となりました。個人では、名古屋市のトワイライトスクールの学生ボランティア、子ども日本語教室のボランティアを始めたのも大学2年であり、ボランティアとインターンシップでの経験で机上の学びだけでは学びきれない多くのことを学びました。3年の夏から本格的に教員採用試験に向けて勉強をはじめ、CDPを受講し、教友ゼミにも参加する機会が増えました。教友ゼミでは小論文、模擬授業、面接、筆記対策を仲間と高めあって共有しあえたことが力となりました。4年では、小学校の実習、特別支援学校での実習、教員採用試験と今までにないくらい忙しく充実した半年間となりました。教育実習に行く前には仲間を集めて授業をしあったり、教員採用試験前にも情報を交換しあったりや仲間の存在が大きかったと思います。今は卒論に向け、多くの書籍に目を向けたり、仲間と自主ゼミでマツ運動を練習したりと充実した生活を送っています。半年後の教壇に立つ嬉しさと不安でいっぱいですが、今まで経験してきたことを生かしていきたいと思っています。

## 子ども発達学専門演習Ⅰのゼミナール活動を紹介します

### 堀美和子ゼミ

稲積 侑美(いなづみ ゆみ) 心理臨床学科 3年  
富山県/水橋高等学校出身



私が所属している堀ゼミでは主に軽度発達障害(知的障害のない発達障害)児について学習しています。軽度発達障害児は定型発達(いわゆる健常)の子と比べると外見などは違いがないのですが、人との関わり方や行動の特徴などからそれぞれ生きにくさを抱えています。健常の子とあまり変わらないからこそ周りの人たちからは『変わった子』と見られがちです。だからこそ周りの人の理解が求められています。私たちはそういう子どもたちがどのような場面で困っているのか、どのような支援が求められているかなど教育の視点も入れながら、主に心理学の立場から考えています。軽度発達障害の子の気持ちを考えるのは、自分が今までスルーしていたことも発見できとても楽しいです！堀ゼミははやるときはやりますが基本的にはホンワカしていて楽しいです★

### 池谷壽夫ゼミ

中納 美緒(なかの みお) 心理臨床学科 3年  
愛知県/安城南高等学校出身

私たち池谷ゼミは、男子2人、女子6人の8人でゼミを毎回賑やかにしています。私たちのゼミでは、池谷寿夫先生がジェンダーと男女平等について研究を行っていることからジェンダーというテーマを中心に勉強を行っています。前期は、ゼミ生全員でジェンダーに関する本(『家族を超える社会学—新たな生の基盤を求めて』)を読み、章ごとにグループを決め、その章のテーマについて調べ、発表を行いました。「ステップファミリー」や「ジェンダー家族」を超えた家族のあり方などについて発表が行われました。

後期は、夏休みの課題として出された自分の興味のあるテーマについて調べ、発表を行っています。ポイズ・ラブ、アダルトチルドレン、育児休暇、里子制度などについて発表が行われました。親睦を



深めるためにゼミコンを先生の家や友達の家で定期的に行っています。

### 中里南子ゼミ

植田 航(うえだ わたる) 保育専修 3年  
千葉県/志学館高等学校出身

私たち中里ゼミは音楽的な様々なことに焦点を当てて追及をしています。テーマを自分たちで定めて各自が自分のテーマに沿って調査、研究活動をしています。たとえば自分は発声法に重点をおいてミュージカルを探求し、その発声法を比較研究してミュージカル制作に取り組んでいます。そのまま卒業制作になりうるか不安で一杯ですが今は様々なミュージカルを比較研究する日々です。子どもとともに楽しめるオペレッタに繋げることができれば良いと思っています。自分のやりたいテーマをしっかりと決めて自分で計画を立てて行動する必要があるのだとてもやりがいのあるゼミだと思います。

### 松下孜ゼミ

太田 真生(おおた まさお) 初等教育専修 3年  
愛知県/安城南高等学校出身

松下ゼミでは、江戸時代の文書(古文書)を読んで、地域の村やお祭りについて調べています。例えば、お祭りでは津島のお祭りに実際に行ってみてどんなお祭りなのかを写真に撮ったりします。そこから、尾張藩の江戸時代に書かれた古文書を読んで当時の津島のお祭りがどうだったのかを調べていきます。



このように、現代の町と江戸時代の当時の村の違いを知ることで、自分の地域に関心を持つことができるようになります。他にも、今年は岐阜の高山と牧歌の里に足を運びました。岐阜に、松下先生の小さなお家があるので、そこを借りてゼミのメンバーで交流します。このゼミでは、歴史を学ぶことと同時に、自分の地域の歴史を知ることによって歴史という存在を身近に感じることができるようになっていきます。自分の住んでいる町は、知らない間に当たり前の世界になっています。その世界には、必ず過去があり、そこに多くの自分達の知らない世界が存在するのです。それを、この松下ゼミで身近な地域の歴史を調べることで、自分が知らなかった地域の歴史を知ることができるようになると思います。私たち自身も、始めは古文書というまったく分からない文書を読むことはとても大変でした。しかし、ゼミの仲間たちとともに、同じスタート地点にたっていることで、みんなで教えあい、学びあうことができます。ただの歴史の勉強とは違い、古文書研究は歴史をじかに感じることも出来るものであると言えます。

この大学にいるので、大学の地域にあるお祭りや、歴史を感じる歴史建造物を見学してみるのも良い体験になると思います。そして、そこから、古文書を読み解くことで自分の知らない歴史を学べることができるゼミだと思っています。

## 終わってしまうことが 惜しいくらいの実習でした

### 特別支援学校教育実習

西山 愛(にしやま あい)  
初等教育専修 4年  
三重県／皇學館高等学校出身

私は9月5日から、三重県立特別支援学校玉城わかば学園で、2週間教員として実習をさせていただきました。中等部3年生のクラスに配属になり、6人いる生徒のうち、特定の1人の担当として、日常生活や学習の支援を行いました。毎朝、バスで登校してくる生徒たちを出迎えることから始まり、着替えやダンス・運動を行うモーニングタイムを含めた朝の会を行います。授業は、ことば・かず、生活単元学習、音楽、美術、体育などがあり、クラスの枠をこえて活動する子どもたちの様子もみることができました。自分の作った教材に取り組む姿や、こなしていく姿をみると、頑張っただけで良かったなと思えたり、子どもたちの経験の幅が増えるきっかけになれたことに喜びを感じました。今まで知らなかった障害や、子どもとの接し方など、2週間ではおさまりにくい毎日新しい情報や経験と共に、充実した日々を過ごすことができました。始めは不安で仕方なかった実習も、気づけば終わってしまうことが惜しいくらいになっていました。2週間という短い期間でしたが、この教育実習での経験を生かして、今後の糧にしていきたいと思えます。



## 失敗しても良いから

### 保育所(園)実習

岩間 あゆみ(いわま あゆみ) 保育専修 3年  
長野県／松本美須ヶ丘高等学校出身

保育実習Ⅱは、2回目の保育実習であったため、前回(保育実習Ⅰ-1)よりも気持ちに余裕を持って、実習に臨むことができました。前回とは、実習園が変わったので、まず1日目は、1日の保育の流れを覚えることを最優先にしました。園の先生方から、「失敗しても良いから、何でも積極的に取り組んでね」という優しい言葉をいただきました。そのおかげで、失敗を恐れず、毎日積極的に取り組み、2週間の実習期間、本当に充実した日々を過ごすことができました。私は、毎日、部分実習で手遊びや絵本の読み聞かせをしました。子どもたちも、毎日楽しみにしてくれていたのも、それがとてもうれしく、実習期間中もたくさん手遊びを覚えるようになりました。今回の実習で学んだことの一つに、子ども一人ひとりできることや性格がまったく違うということがあります。子どもと関わる中で、全員に通じる言葉かけと、特定の子どもにだけ通じる言葉かけがあることを知りました。一人ひとりの性格や、発達状況に合わせた言葉かけを考えることが保育士に求められていることがわかりました。さらに家庭状況によって、子どもの気持ちや様子も変わってくるため、家庭との連携は欠かすことはできないことがわかりました。先生方、2週間本当にあ

## 保育者の姿から学んだこと 保育所(園)実習

袴田 真弓(はかまた まゆみ) 保育専修 3年 静岡県／芥田学園高等学校出身

保育実習Ⅰ-1では、1・2・4・5歳児クラスに入り実習をしましたが、今回は、2週間を通して4歳児クラスに入らせていただきました。2週間同じクラスに入るということで、子ども一人ひとりとじっくりかかわることができ、4歳児の特徴や個々の子どもの特徴、その子どもに合った対応の仕方というのを見つけながら行なうことができました。また、生活発表会の時期ということもあり、前回とは違った子どもの姿を見ることができました。

4歳児は、まわりを見て遊ぶことはできるけれど、自分の気持ちが強く、思うようにいかないと喧嘩を始めた。活動に取り組まなくなったりしました。トラブルが起きた際に、保育者は、自分たちで考えることを大切にしよう、子どもたちに働きかけていました。解決しない場合には、保育者が子ども双方の話を聞き、相手を代弁しながら気持ちを伝え、お互いがどう思ったのかを伝え、解決できるようにしていました。このような先生方の姿から、保育において大切にすべきことを学ぶことができました。ありがとうございました。

## 一緒に学び成長しましょう(教員紹介)

山田 麻紗子(やまだ まさこ)  
心理臨床学科 准教授



心理臨床学科には臨床心理学や基礎心理学、その他の基礎教養の学問を専門とするたくさん魅力的な教員がいます。私は「犯罪・非行心理学」を専門にしています。犯罪心理鑑定を行うために拘留所等で被告人に面接したり、若者の家出や非行・犯罪・児童虐待のケースのご本人やご家族、担当する相談員や児童福祉司・児童心理司、弁護士などの相談に耳を傾けたり、ゼミの学生とは少年非行の処遇機関である少年院、家庭裁判所、その他の施設に毎年フィールドワークに出かけたりしています。

非行と聞くと若い皆さんは、年代が近いことから「身近な問題」として関心を持つ人もいるでしょうし、「許しがたいこと」として加害少年を糾弾する人もいるでしょう。心理臨床学科の勉強では、何故悪いことをするのか、何が原因でその行為に至ったのか、どうしたら非行を乗り越えることができるのかを明らかにして、立ち直りへの支援を学びます。こうした学習や活動は簡単ではありませんが、人の可能性の奥深さを教えられ感動することがあります。興味深いですよ！一緒に勉強しましょう。

遠藤 由美(えんどう ゆみ)  
子ども発達学科 准教授



私は、「教育福祉論」と「社会的養護」などの講義を担当しています。主に、「貧困」や「虐待」のもとにおかれているために、家族と離れて施設で生活せざるを得ない子どもたちの育ちについて研究しています。私に大きな影響を与えてくれた保育士さんや児童指導員さんとの出会いが2つあります。ひとつは、子育てをするなかで出会った保育園の保育士さん。病気がちな子どもたちだったので働きながらの子育ては大変でしたが、そんな厳しさを一緒に受け止めて励ましてくれた保育士さんたちのおおらかさにはほんとうに助けられました。子どもたちののびのびと育ちましたし、保育士さんを仲立ちにできた親同士とのつながりは今でも子どもたちの育ちを共感しあえる仲間として日々の力になっています。もうひとつは、大学時代ゼミの先生に連れられて行った研究会(全国児童養護問題研究会)で出会った保育士さんや児童指導員さん。その熱意に感動し、一緒に施設の子どものことを考えていきたいと自分の進路を決めました。以来その研究会の場は、施設職員さんや施設を利用して育った人たちの学びの場であり、ホッとできる居場所にもなっています。自分たちの日々の教育や養護の現場で、保育士さんや児童指導員さんは子どもたちの「小さな親」であり、「大きなお母さん」。さらにそこでは、子どもたちだけでなく親も育っていけるチャンスがある。子どもや親が育っていくプロセスで保育士さんや児童指導員さんも育つことができる。子どもとおとなが育つ「教育福祉」の場です。大学時代はそのような魅力的な世界への入口。一緒に学びあっていきましょう。